

# 第 22 回二宮康明杯・全日本紙飛行機選手権大会概要

テ ー マ 「青い空見よう！」

開催趣旨 「青い空見よう！」を合言葉に、青少年を中心としたすべての人々が紙飛行機競技を通じて、自然と親しみ、科学への関心を養い、ふれあいの中に、健全な野外スポーツの啓蒙を行うことを目的とする。

主 催 日本紙飛行機協会

後 援 文部科学省 東京都西部公園緑地事務所 武蔵野市

武蔵野市教育委員会 米国スミソニアン航空宇宙博物館

大会役員 大会会長：二宮康明（日本紙飛行機協会会長・工学博士）

大会名誉顧問・審査員：東昭（東大名誉教授・工学博士）

運営責任者：荒木敏彦（日本紙飛行機協会 事務局長）

運営協力 倶楽部原っぱ（武蔵野中央公園紙飛行機クラブ）全国紙飛行機愛好者クラブ  
都立武蔵野中央公園

協 賛 A O Z O R A

予選大会 平成 28 年 3 月 12 日（土）～8 月 21 日（日）（全国 25 都道府県）

決勝大会 平成 28 年 11 月 05 日（土） 敗者復活戦（東京都武蔵野中央公園）  
規定種目 21, 22, 23 決勝競技

平成 28 年 11 月 06 日（日） 決勝大会（東京都武蔵野中央公園）

競技種目（滞空時間競技・以下 13 種目）

規定種目 1. ホワイトウイングス・スカイカブⅢ

ホワイトウイングス・スカイカブⅠ

規定種目 2. ホワイトウイングス・スカイカブⅣ

規定種目 3. ホワイトウイングス・レーサー530S

規定種目 4. ホワイトウイングス・レーサー554

規定種目 5. ウイングスプレーン（スチレン機）※

規定種目 6. ホワイトウイングス・レーサー590（ハンドランチ専用）

規定種目 7. ホワイトウイングス・三菱零戦（21 型、52 型）

規定種目 11. ホワイトウイングス・スカイカブⅢ

ホワイトウイングス・スカイカブⅠ

ホワイトウイングス・スカイカブⅣ

規定種目 12. オール・ホワイトウイングス（規定 11、13 以外全ての機種）

規定種目 13. ウイングスプレーン（スチレン機）※

※（スチレン機は、ウイングスプレーン、アルファ、ジェット、おえかきプレーン）

規定種目 21. 自由設計種目（ゴムカタパルト部門）

規定種目 22. 自由設計種目（手投部門）

規定種目 23. 複葉飛行艇 「N-2240」

※1. 規定種目 21・22 及び 23 は平成 28 年 11 月 5 日（土）に決勝競技を行う。

※2. 規定種目 23 は 11 月 5 日、当日自由参加とし地区予選は行わない。

## クラス分け

規定 1～7 まではAクラス（中学生以上）

規定 11～13 はJクラス（小学 6 年生まで）

規定 21、22、23 はFクラス（クラス分け無し）とする

## 発進方法

規定種目 1, 2, 3, 4, 5, 7, 11, 12, 13, 23（手投げ、ゴムカタパルト自由選択）

規定種目 6, 22（手投げのみ）

規定種目 21（ゴムカタパルトのみ）

注：規定 12 でレーザー590 を使用の場合は手投げのみとする。

注：ゴムカタパルトを選択する場合は、協会指定の赤色系ゴム 50cm 以内 1 本を一重で使用する。協会指定以外の糸ゴムを使用した場合は失格とする。

※規定 23 については、協会指定の赤色系ゴム 50cm 以内 2 本を可とする。

## 決勝大会定員（総合計 495 名）

規定種目	全国7ヶ所定員	会場代表定員
1	25	20
2	25	20
3	25	20
4	25	20
5	30	-
6	30	-
7	50	-
11	35	-
12	35	-
13	35	-
21	50	-
22	50	-
23	定員無（当日自由参加）	

※規定 1～7 はAクラス（中学生以上）

※規定 11～13 はJクラス（小学生まで）

※規定 21～23 はFクラス（クラス分けなし）

※上記以外に日本紙飛行機協会による招待者が参加する場合があります。

★決勝進出者には日本紙飛行機協会より詳しい案内等を送付致します。

## 参加種目

1. 予選会における参加可能種目は1会場当日につき1人2種目までとする。
2. 決勝大会における参加資格種目については1人につき下記の通りとする。  
(今大会では1人が重複して以下の種目数の参加資格を可能とする)

### ○11月5日(土) 競技

#### Fクラス(クラス分けなし)

- 1・規定種目 21, 22 の内から 1 種目
- 2・規定種目 23 (予選なし)

### ○11月6日(日) 競技

#### Aクラス(中学生以上) 3種目

- 1・規定種目 1・2・3・4 の内から 1 種目
- 2・規定種目 5・6・7 の内から 2 種目

#### Jクラス(小学生まで)

- 1・規定種目 11, 12, 13 の内から 2 種目

## その他

### 文部科学大臣賞について

中学三年生までの決勝進出者の決勝合計タイム最高記録者1名に授与されます。

### 決勝大会参加費 (1名)

中学生以上 2,500円 小学生以下 1,000円

# 滞空競技 ルール

## ●競技

1. 滞空競技は、本人が行う。
2. 予選に参加する場合、計測用紙の項目（氏名、住所、年齢、電話番号、参加種目、参加日、会場記号、ルール誓約署名など）をもれなく記載しなければならない。（記載がもれている場合は失格となります）
3. 登録会場の記入は規定種目 1, 2, 3, 4 の会場代表選出を主な目的とする。  
登録は原則として、自分の住まいに近い会場を設定すること。（その年度の大会期間中は変更できない）
4. 計測前に競技主催者または計測員により簡単な機体確認を行う。（機首スポンジ装着、記名の有無など）
5. 決勝大会の上位入賞者については、競技終了後、機体検査を行う場合がある。
6. 滞空時間は、機体の発進から飛行停止までとする。
7. 機体とゴムカタパルトは、必ず自分自身の手で持って飛ばすこと。（お体の不自由な方は主催者にご相談ください）滞空競技部門で使用するゴムカタパルトは、協会指定#20の全長 50cm 以下の赤色系ゴム（旧 AG 社および A O Z O R A 社製）1 本を 1 重で使用し、支持棒に直接結びつけたものとする。他の材料を付け加えることは認めない。また、支持棒は 15 cm 以内の木製とし、形状は自由とする。（決勝時には、市販商品内の支持棒を使い、主催者側で支給する糸ゴムを使用）※規定 23 は同赤色系ゴムを 2 本とする。
8. 機体が木や建物等の障害物に当たった場合、その時点で計測を打ち切る。また、物陰に隠れた場合、機体を確認できなくなった時点でラップを使用し計測を中断する。その後、飛行が確認されなかった場合、中断時点でのタイムを記録とする。
9. 計測は 5 回行い、その合計タイムを競う。
10. タイムは 1/10 秒まで計測し、以下切り捨てとする。
11. 60 秒以上飛行したものは、Max 記録とし、一律 60 秒として集計する。60 秒以下で機体が視界から没してしまっても、計測員の判断によって、Max と認定することがある。
12. 規定 23 は Max 記録を 40 秒とする。
13. 3 秒未満の飛行は、各フライトにつき、1 回に限り再飛行を認める。  
※この場合の再飛行は直ちに行う事とし、調整の為の飛行等は認めない。  
機体が飛行不能な状態に破損した場合、修理・交換を認めるが調整飛行等は認めない。
14. 各部門の入賞者に同点があった場合の決勝飛行は、フライオフを行う。フライオフは、同点競技者全員が主催者の合図で同時に発進し、順位が決定するまで行う。この時、13 のルールは適用しない。
15. クラス分けは、中学生以上を A クラス、小学生以下を J クラスとし、基準日を決勝大会最終日とする。クラス分け無しは F クラスとする。
16. 計測は、自由計測方式、呼び出し方式いずれかとする。但し、正式計測直後の機体の回収に手間取る場合は、その旨申し出れば考慮されるが、主催者側の判断で代替機の使用を指示する場合がある。

17. 決勝大会における参加資格種目については1人につき下記の通りとする。  
(今大会では1人が重複して以下の種目数の参加資格を可能とする)

○11月5日(土) 競技

**Fクラス(クラス分け無し)**

1・規定種目 21, 22 の内から 1 種目

2・規定種目 23 (予選なし)

○11月6日(日) 競技

**Aクラス(中学生以上) 3 種目**

1・規定種目 1・2・3・4 の内から 1 種目

2・規定種目 5・6・7 の内から 2 種目

**Jクラス(小学生まで) 2 種目**

1・規定種目 11, 12, 13 の内から 2 種目

18. 規定種目 2「スカイカブⅣ」に限り決勝大会での競技は、決勝当日に材料 1 機分の無償提供されたものを指定時間に組立て、その後決勝競技を実施する。材料の追加要望がある場合は有償で供給される。(ただし、決勝当日が雨天や強風など運営上に支障があると、事務局が判断した場合は持ち込み機体を使用する。) 予選大会に於いては、事前製作機の使用は可。

規定 11-J クラスの「スカイカブⅣ」は当日製作とせず、事前製作機を使用する。

19. 規定 12-J クラスの機種はオール・ホワイトウイングスとし、全てのホワイトウイングス機種を使用可能とする。(規定 11・13 の機種は除き、企業ノベルティ品、雑誌付録品等も可とするが、コピーは不可とする)
20. 決勝大会では相互計測の為、Aクラスの参加者はストップウォッチの持参を必須とし、計測前の点呼時に持参していない場合は競技へ参加できない事とする。

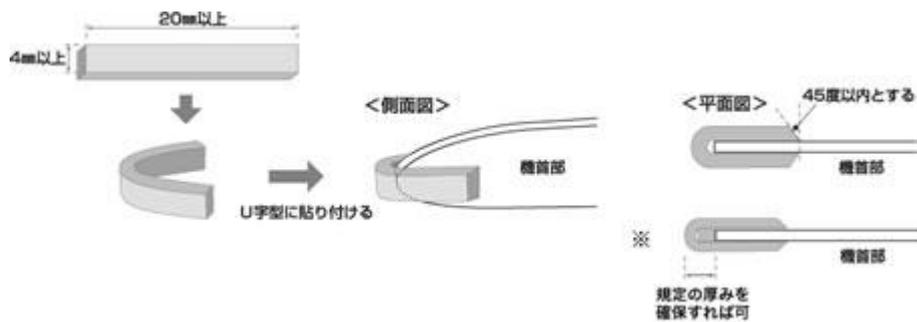
## ●滞空競技機体規格

規定種目の機体は、以下の事項を満たしたものであれば何機使用しても良い。(但し、決勝大会では使用できる機体数を制限する場合がある)

1. 安全対策として、以下の事項を厳守のこと

- ① 主翼前縁を鋭く加工したナイフエッジを禁止する。(ガイドライン参照)
- ② 規定種目 1, 2, 3, 4, 7 の機体の機首部分には厚さ 2.5mm 以上で寸法 4x20mm 以上のゴムスポンジを図のように装着する。これがない場合は競技への参加を認めない。ゴムスポンジのない機体で発進した場合は失格となる。(図参照) 尚、スポンジ後端部の加工を図のように 45 度以内とすることは認める。
- ③ 厚さ 2.5mm 未満のゴムスポンジを使用する際は、重ねて貼るなどして、先端部の厚みが 2.5mm 以上になるように工夫すれば可とする。(図※参考)
- ④ 規定種目 5・13 の「各ウイングスプレーン」の機首部分については**キット付属のおもりゴムシートを説明書通りに使用すること。**

- ⑤ 規定種目6の「レーザー590」の機首にはセット内の黒スポンジ（3mm厚）を6×25mm以上にカットして装着する。装着方法は図を参照。



2. 製作にあたり、瞬間接着剤（シアノアクリレート系）やエポキシ系その他の反応性の接着剤は使用してはならない。但し、予選および決勝での機体破損の修理用として、破損部分に少量使用することは可とする。（自由設計種目 21, 22 は自由設計機—機体規格参照）
3. 接着剤は、紙の接着以外の目的（胴体や主翼の強度を高める等）で使用してはならない。但し、水平尾翼の両端を折り曲げて垂直尾翼とする折れ線部分、及び主翼上反角（2段上反角部含む）の折れ線部分に限り、固定の目的で推奨接着剤を使用することは可とする。（日本紙飛行機協会推奨接着剤：セメダイン社製／工作用セメダインC、またはコニシ社製／工作用ボンドK）※規定種目 2, 11 の「スカイカブIV」では接着剤等の使用を不可とします。但し、バランス調整のためのオモリ等の装着は必要限度内の使用は可とします。
4. 機体の塗装は軽く防湿することを目的とし、厚く塗装する事は不可。塗装剤はニトロセルロース系アクリルラッカー又はアルキドラッカーのみとし、ウレタン系、エポキシ系等の補強効果のある塗料は禁ずる。なお、クリアーラッカー（透明ラッカー）以外に、機体に塗色することは（紙と識別するため）50%を限度に可とする。
5. 紙にラッカー等を含浸させる（ドブ着け等）等の方法で紙の強度を上げる等の行為は禁ずる。ラッカー等の塗装とサンドペーパー磨きを何度も繰り返すことによって紙の強度を補強等することも不可とする。

## 6. 機体規格

1. 機体には必ず自分の氏名を記入する。
2. 機体は競技者本人が製作したものであること。
3. 指定された市販または協会通信販売の機体を使用する。コピーの使用は認めない。
4. 無改造とし、指定された部品を説明書通りにすべて用いること。
5. 胴体の角面はバリを取る程度は可とするが、胴体を丸く加工することは禁ずる。（ガイドライン参照）
6. 部品のバルサ材や紙を薄くすることを禁ずる。
7. バランス調整のためのオモリ用に紙又は金属製のバラストの装着は可とする。なお金属製のバラストを使用する場合は安全最優先のため露出させてはならない。（ガイドライン参照） また市販品の金属製フック付きキットに限り、金属フックの使用を認める。その際、必ず後方に少し曲げ、先端はサンドペーパー等でバリをとっておく。
8. 機体に識別用シール等を付加する事は禁ずる。

9. 規定種目 5 および 13 のウイングスプレーン(スチレン機)についても無改造とし、ゴムフック部の補強について協会推奨の補強方法(別途補強方法参照)を行う事を可とする。  
(胴体と主翼・尾翼部の固定や主翼上反角をシール・接着剤等での補強可)  
※(おえかきプレーン(ウイングスプレーン・ホワイト)に限り水性顔料マーカー、又は油性マーカーを使用して自由に着色することは可とする。ラッカー塗装は認めない)
10. 規定種目 6 のレーサー590 の機体については指定範囲内での補強を認める。  
(補強の指定範囲は別途参照のこと)
11. 規定種目 7 の三菱零戦(21型・52型)の機体についてはバルサ部分を着色する事を禁ずる。(設計者のオリジナリティーを保つため)

## 7. 自由設計機-機体規格(規定種目 21・22)

1. 規定種目 21 及び 22 の自由設計機については以下の機体規格を適用する。

- ① 主翼の長さ(翼幅)を 180mm 以上 360mm 以内とし、胴体、尾翼の形状は自由とする。
- ② 胴体を製作するための接着剤は自由とする。
- ③ 規定種目 22 の手投げタイプの機体のみ、胴体と主翼の固定は、取り外し可能な紙テープ(マスキングテープ)の使用を可とする。
- ④ 機体を構成する用紙は A0ZORA ケント(旧ホワイトウイングスケントも可)のみとし他の材料の使用は不可とする。
- ⑤ 機体は参加者のオリジナル設計機とし、市販されているもの、および他人の設計したものは不可とする。
- ⑥ 機体のバランスを取る為に板鉛などを使用する場合は露出せず紙で覆う事とする。
- ⑦ 金属製のフックは不可とする。
- ⑧ 機首に装着する安全ゴムスポンジについては、主翼の翼幅が 200mm 未満の場合は、滞空競技機体規格-1 の安全対策事項に規定されているオレンジ色のゴムスポンジを装着するものとし、200mm 以上の翼幅を持つ機体については、新たに供給(販売)されるオレンジゴムスポンジをカットして(幅 6mm、長さ 30mm 以上、厚み 3.5mm)を装着するものとする。※サイズの要件を満たしていても他のスポンジを使用することは不可とする。
- ⑨ その他は、22 回大会の滞空競技ルール及びガイドラインに準ずる。

## 8. 複葉機-機体規格(規定種目 23)

1. 規定種目 23 の複葉機については以下の機体規格について適用する。

- ① A0ZORA 社のネット販売及び誠文堂新光社の出版物に記載の「N-2240」を説明書通りに組み立てた物で有る事。
- ② 前方からの風でプロペラが回転すること。
- ③ プロペラの軸の虫ピンが脱落しない事。※プロペラが競技中(計測中)に脱落した場合は失格とする。
- ④ プロペラの直径が 48mm 以上である事。※48mm に満たない場合は失格とする。

- ⑤ プロペラの幅は 3mm 以上であること。※3mm に満たない場合は失格とする。
- ⑥ その他は、22 回大会の滞空ルール及びガイドラインに準ずる

## ●予選会参加規程

- 予選会にはどこの予選会場でも自由に参加できる。(参加費は原則として一人 300 円迄) 但し、有料でお借りする会場の場合、参加費 500 円を限度として設定される。
- 予選会の記録は予選運営者のデータ連絡によって、協会HPでそのつど掲載される。
- 予選会の実施時間は受付から競技終了まで、原則として 3 時間とする。降雨や、強風等、やむを得ない場合、又は参加人数等により協会が認めた場合のみ時間の延長ができる。(競技終了後の集計や表彰式等の時間は除く)
- 予選大会での参加はどの種目に参加しても良い。但し、運営上等の問題もあるため、当日の 1 会場につき最大、一人 2 種目までの参加とする。
- 予選会は参加選手 5 名以上で成立する。5 名未満の場合の記録は認めない。
- 予選会において運営の都合上競技に参加できないスタッフの計測をする場合は、実施日時と、氏名を明記の上、予選会の日程を提出する際、同時に申し込んでください。その際 3 名以上の確認者が必要となります。
- 予選会では参加機体はもちろんのこと、ゴムカタパルト(予備の糸ゴム含む)やゴムスポンジ、ストップウォッチ、筆記具など必ず自己責任によって持参、管理すること。
- 予選会場では、関係者以外の人々にも充分配慮するなど、周囲の状況をよく見て、安全を最優先として参加すること。問題が生じた場合は必ず運営責任者に報告し、適切な対応を行う事とする。

## ●敗者復活戦(滞空競技)

1. 敗者復活戦のルールは、滞空競技ルール、機体規格、ガイドラインに準ずる。
2. 滞空競技の敗者復活戦は 11 月 5 日(土) 11:00 より受付開始。
3. 敗者復活戦の決勝進出枠は 10 月上旬、インターネット上で発表する。(各種目とも最低 2 名は選出される。ただし自由設計種目の敗者復活戦は実施しない)
4. 参加者は予選大会の結果、決勝に進出できなかった種目に参加できる。(敗者復活選当日は最大 2 種目まで参加できる)  
※予選会に 1 回以上参加している事を条件とする。  
(予選会に参加しても、記録無しの場合は ”条件を満たさない” とする。)  
※特別の理由が認められる場合、推薦によって認める場合がある。
5. 敗者復活戦に限り計測は 3 回の合計とする。

## ●機体検査について

機体検査を行う場合の機体検査は以下のようにする。

1. 予選会においては機体検査を行わない。ただし競技主催者または計測員によってゴムスポンジの装着や名前の記載等についての確認を行う。その際、修正指示に従わない場合は失格とする。
2. 競技参加者は、予選会および決勝大会の受付時に、競技ルール、機体規格、機体規格ガイドライン（以下、競技ルール等という）の遵守について、宣誓書への署名を行う。宣誓書に署名がないものは失格とする。（宣誓書は計測用紙を兼ねる）
3. 競技ルール等は、日本紙飛行機協会のウェブサイトで公表するので、必ず全項目に目を通してから署名すること。
4. 決勝大会では競技開始前において機体検査を実施する。（詳細は予選会終了後発表予定）
5. 機体検査は、機体検査委員会によって行う。機体検査委員は委員長を含め、3名以上の人員で構成する。
6. 機体検査委員会の決定によって、競技ルール等に違反があった場合は失格とする。抗議は認めない。

※機体検査委員長は荒木事務局長が務め、副委員長は風祭競技委員長が兼務する。他の委員については、委員長および副委員長の要請によって選任、要請の上決定する。また必要に応じて、機体検査に関連する事項を協会ウェブサイト上および決勝進出者への案内等で公表する。

## ●その他

- 予選競技、決勝競技において、運営上等の都合により、競技方法および競技ルールを変更して実施する場合がある。
- 自由設計機以外の種目機については市販機体であることから、予告なしに仕様変更される場合があるが、新旧いずれの機体も参加可とする。

# 滞空競技ルール・機体規格等に関するガイドライン

## ■滞空競技 ルール等の補説

### 1. 計測方式について

計測は、予選は自由計測方式、呼び出し方式どちらでもよい。

#### 1. 自由計測方式：

指定回数のフライトを、事前に設定した時間内に各自が自由に行なう。計測記録は、競技者相互で行う方法、またはあらかじめ専従の計測員を用意する方法のいずれか。

#### 2. 呼び出し方式：

種目ごとあるいは任意に人数がほぼ均等になるようにグループを作り、計測員の呼び出しによって、グループメンバーが順にフライトを行ない指定回数繰り返す。

#### 3. 今大会では従来のような、専属の計測員を設定することが難しくなっている。

そのため参加者は予選、決勝を通じて、自前のストップウォッチを用意し、いつでも計測員として協力するものとする。

※ 決勝大会での計測方式は、敗者復活枠発表時に協会 Web 上にて発表する。

### 2. 決勝大会参加資格の選定

決勝参加資格の選定は全国ランキングを優先して選定し、次に会場代表の選定を行う

### 3. 規定種目毎の全国ランキングでの決勝参加資格について

各規定種目とも別表による定員を全国ランキングによる上位者を決勝大会参加資格者とする。（同一参加者の重複による選出の各種目別の詳細は下記の各項目の通りとする。）

#### 1. 規定種目 1・2・3・4 の全国ランキング参加資格

1. 同一参加者が決勝大会への参加資格が規定種目 1~4 で重複している場合は、個人の各規定種目の予選会での規定種目 1~4 の記録の中でもっとも高い全国順位を達成した 1 種目のみを参加資格とする。
2. 上記 1 で、同一参加者のもっとも高い全国順位が同一順位の場合は計測記録の高い 1 種目のみを参加資格とする。
3. 重複者にて定員割れが発生した場合、下位の記録者を決勝定員枠まで繰り上を行い全国ランキングによる決勝大会選出の参加資格とする。
4. 規定種目 1~4 にて全国ランキングに於いて決勝大会への参加資格を有する場合は、規定種目 1~4 での会場代表の資格を得ることはできない。

#### 2. 規定種目 5・6・7 の全国ランキング参加資格

1. 同一参加者が決勝大会への参加資格が規定種目 5・6・7 で重複している場合は、個人の各規定種目の予選会での規定種目 5・6・7 の記録の中で高い全国順位を達成した順に 2 種目までを参加資格とする。
2. 上記 1 で、同一参加者の全国順位が同一順位の場合は計測記録の高い規定種目の方を参加選考種目として扱う。

3. 重複者にて定員割れが発生した場合、下位の記録者を決勝定員枠まで繰り上を行い全国ランキングによる決勝大会選出の参加資格とする。

### 3. 規定種目 21・22 の全国ランキング参加資格

1. 同一参加者が決勝大会への参加資格が規定種目 21・22 で重複している場合は、個人の各規定種目の予選会での規定種目 21・22 の記録の中で高い全国順位を達成した順に 1 種目までを参加資格とする。

2. 上記 1 で、同一参加者の全国順位が同一順位の場合は計測記録の高い規定種目の方を参加選考種目として扱う。

3. 重複者にて定員割れが発生した場合、下位の記録者を決勝定員枠まで繰り上を行い全国ランキングによる決勝大会選出の参加資格とする。

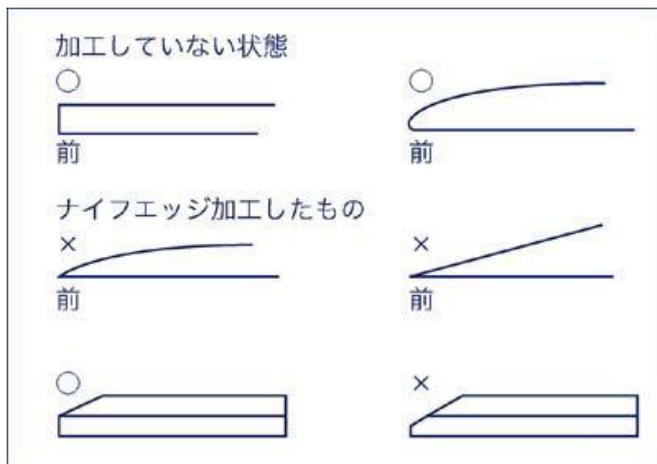
### 4. 規定種目 1、2、3、4、の会場代表選出について

1. 会場代表選出は、A クラス全国集計上位 25 名以外の競技者で、あらかじめ設定した登録会場での競技記録を対象に、その会場の全日程の記録から各種目・クラスの上位 1 名を代表として認定し、更に、全会場代表記録から上位 20 名を決勝進出記録として選出する。今大会では会場代表記録でも全代表中 21 位以下の場合は予選落ちとなるので注意すること。
2. J クラスにおいては会場代表の認定は行わない。
3. 登録会場以外での競技記録は、全国集計の対象になり、会場代表選出の対象外とする。
4. 1~4 の各種目において、その会場の上位 1 名がすでに全国集計において決勝進出者となっている場合は、次順位者以下を繰り上げて会場代表と認定する。ただし、会場代表認定の決定後は、会場代表の繰り上げ選出は行わない。（決勝進出資格の譲渡もできない）
5. 個人の会場代表としての決勝大会出場資格の測記録が複数種目ある場合は、各個人のもっとも高い測記録の種目を決勝参加の会場代表の種目とする。（その登録会場の他の種目の会場代表は次順位者以下を繰り上げて会場代表と認定する。）  
※測記録が同一の場合は規定種目 1, 2, 3, 4 の順で選出する。

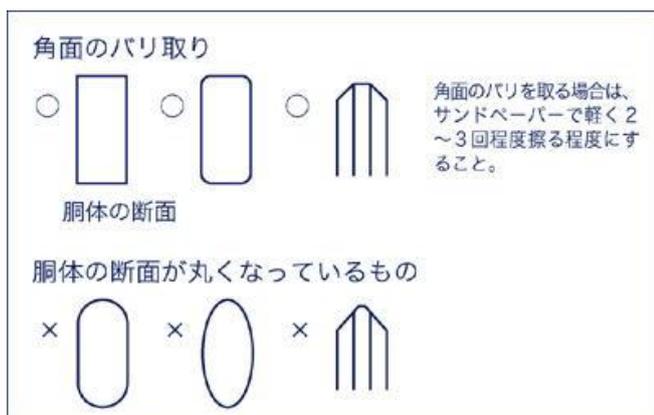
## ■滞空競技機体規格の補説

1. 機体の滑り止めとして、紙やすりを貼り付けることは禁止する。
2. 金属製のバラストを使用した場合は、安全優先のため露出させてはならない。
3. 金属製のバラストを使用した場合は、金属の表面すべてを紙で被うようにする。
4. 翼前縁を鋭く加工したナイフエッジを禁止する。

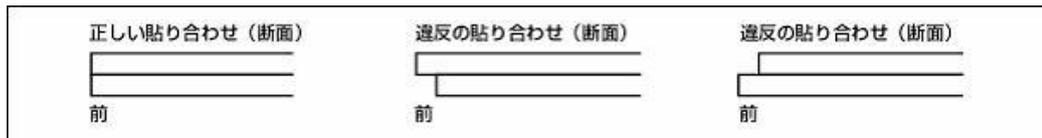
- ナイフエッジとは翼の断面を以下のように成形したものであり、このような加工をしないこと。



5. 瞬間接着剤の使用については、次のケースを除き禁止とする。
  - 予選会または決勝大会において、その当日の調整中または競技中に機体が破損し、急遽修理が必要な場合、破損した部分のみ使用可。その際、補修時に競技監督者等の了解を得ること。  
(瞬間接着剤で修理した機体は、その当日の競技会にのみ使用可能で、以後の別日程の予選会や決勝大会では使用できないので注意の事)
6. 機体の塗装は軽い防湿を目的とし、厚く塗装する事は不可。塗装剤はニトロセルローズ系アクリルラッカー又はアルキドラッカーのみとし、ウレタン系、エポキシ系等の紙を補強する効果のある塗装は禁ずる。
  - カーワックスや蠟燭(ろうそく)のロウ等を塗ることも禁止する。
7. 使用する機体は自作であること。自作とは、競技者本人が製作したものをいう。家族や友人の製作した機体を使用しての競技参加は認めない。
8. 無改造とし、指定された部品を説明書通りにすべて用いること。
  - 翼以外の部品(機首、主翼中央の上反角強化用の部品、尾翼固定の部品、バランス用小部品等)も説明書の指示通りに制作すること。
  - 指示されている部品が欠落している場合(胴体の積層数を含めて)は違反となる。また、キット以外の部品(バランス調整用オモリを除く)を付加する事も禁止する。
  - 翼、胴体はその材質を問わず、バリを取る程度は可とするが、薄くまたは鋭く、あるいは丸く加工することは禁ずる。

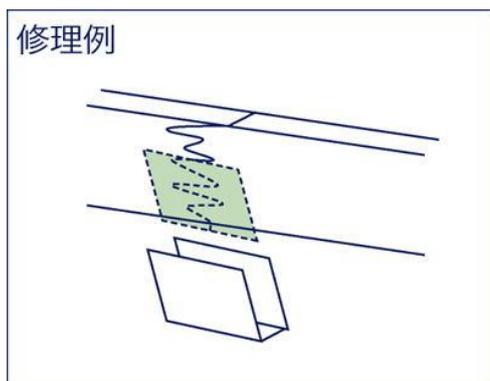


8. バランス調整のための、紙又は板鉛等の金属バラストの装着は可とする。
  - 板鉛等の金属バラストを使用する場合は、金属部を露出させてはならない。必ず紙で被うこと。
9. 機体に識別シールを付加する事は禁止する。
  - 機体の識別用に氏名や機体番号などを紙シールにして貼り付けるケースがあるが、キット以外のものを機体に付加することになるため禁止する。
  - 氏名や機体番号をつける場合は、機体に直接記入する。
10. 規定の機種のパーツの貼り合わせについて
  - 規定の機種で各パーツを貼る際には、説明書通りに揃えて貼り合わせること。（下図の左の図）
  - 故意に各パーツをずらして貼り合わせしてはならない（下図の中央・右の図）



### 11. 機体の修理について

- 予選会または決勝大会の、調整中または競技中に機体が損傷した場合、推奨の接着剤等又は瞬間接着剤で接合し必要に応じ紙で接合部分を補強することは可とする。



（瞬間接着剤を使用して補修した機体は、その当日の競技会にのみ使用可能で、以後の別日程の予選会や決勝大会では使用できないので注意の事）

- 修理以外の目的での瞬間接着剤の使用については禁止する。

以上

改定歴：2016年2月改定

改定歴：2016年3月14日改定（滞空競技機体規格 → 6. 機体規格 → 項目9）